

ワーカーズの事業をしていく中で遭遇するいろいろな事態。参考にできます。



ピカピカの「青いそら号」

今や、福祉は幅広い

「見守りを兼ねたお弁当お届けサービス」に
共同募金の配分を受けました

赤い羽根共同募金、皆さんも募金したことはありますよね。この募金したお金が「青いそら」に配分されました。市民の担う新しい社会や事業のあり方がいろいろなところに影響していきます。

お弁当配達車両がほしい！

「青いそら」では、一人暮らしの高齢者や、病気や障がいがあるために食事をつくるのが困難な人々に夕食を届けています。見守りや話し相手をかね、病気にも配慮したお弁当の配達は、メンバーの自車両を使用し様々なリスクを伴います。ときには駐車違反で摘発され、限界を感じていました。そこで、共同募金の配分申請をし、車両の整備をすすめることになりました。

事前調査員の福祉観は古かった？

共同募金は、多くの市民の募金を福祉に役立て、その福祉事業を担う団体に配分されています。多くは、障がい者施設などが、継続して配分を受けているようです。

私たちは、初めての配分申請で、この配分を決定している埼玉共同募金会から、事前の調査を受けました。その場での第一声は、『あなた方は、資本家ですよ、そんな団体が共同募金の配分を受けるのですか？』、『障がい者は何人働いていますか？その方たちだけが配分の対象です』でした。

そう、この上から目線の方たちは、福祉を狭い範囲で捉えている、ワーカーズコレクティブの働き方や地域に貢献する事業を行っていることも知らない。それならこの機会に旧態依然とした福祉観は払拭し、ワーカーズコレクティブがどんな団体か、そして市民が担う新しい公共の実践例をしっかりと伝えなければ...

求められている地域福祉

福祉といたら法律でくくられた、障がい者施設などだけでなく、私たちが日々向

き合う人々のニーズは、公的な福祉制度では救えないもの、どこも手を出さない非効率な部分です。むしろその期待は益々大きくなりつつあります。

病気や障がいで夕食をつくるのが困難な方に安全性の高い、手づくりのお弁当を配達する、人に会える場、困ったことを気軽に話し、助けを求められる場の運営も、欠かせない地域福祉であり、その領域は超高齢社会の中で益々広がっていることを、私たちは日々の業務の中で身をもって感じています。地域福祉の細かなニーズに対応するワーカーズのような団体も共同の配分が受けられるようになることは、募金をする市民の潜在的な意志でもあるのではないのでしょうか。

「新しい団体」と認知されました

そんな丁寧な説明をすると、「新しい団体が出てきたということですね」と理解を示し、結果、配分を受けられることになりました。

この秋から赤い羽根のついた「青いそら号」は三郷市内を美味しいお弁当を載せて走り出しました。

地域福祉を担うワーカーズの皆さん、共同募金の配分申請をしませんか？そして募金もね。

NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ青いそら
浅草秀子

青いそら：

コミュニティレストランと福祉事業
三郷市文化会館内 1F
048-957-9600